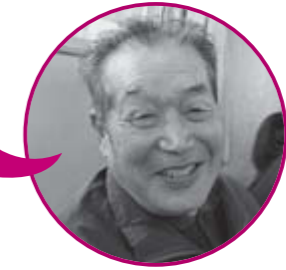


お聞かせください

避難生活の中で感じていること、困っていること。除染や賠償、村の事業などについて聞いてみたいこと。ジャンルは問いません。皆さんの声をお聞かせください。



開沼 幸一さん(前田)
 (伊達東仮設住宅の餅つきにて) 来年もう1回はここで餅をつくのかな。避難指示解除の時期が決まってくれば、少しずつ(住民の転居が進んで)バラバラになっていくかも知れないがね。

平成29年3月までに帰還困難区域を除く区域の避難指示解除を目指すという国の方針が示されて、村でも対応を検討しながら復興事業を進めているところです。
 避難指示解除以降の住まいについては、すでに判断をされているご家庭、家族で話し合いをしているご家庭、決めかねて悩んでいるご家庭など、さまざまあると思われます。昨年12月に国・県と協力して行った「住民意向調査」では、帰村の意向や、避難指示解除後の住まいの希望についてうかがいました。集計結果は、まとまり次第、皆様にお知らせしますので、今後を見通す参考にしていただきたいと思います。村も、結果を踏まえて、住宅確保その他の事業に取り組んでいく予定です。
 また、この避難指示解除によって、避難生活を支え合ってきた自治会などのコミュニティは、いずれ離ればなれになると予測されます。村は、避難先で生まれたつながりも大切にできるよう、こうしたコミュニティの同窓会などを補助していきます。また、避難前のコミュニティの維持や強化に対する支援、帰村後に村で築かれる新たなコミュニティに対する支援も、積極的に行っていきます。



菅野 永徳さん(佐須)
 村内に仮設焼却炉が完成し、廃棄物の減容化が行われています。仮設住宅や方部ごとにバスで現地を訪れるなどして、村民が現場を見学し担当の説明を聞くことはできませんか。

現在のところ、自治会単位の見学会などは予定しておりませんが、見学の申し込みは、随時受け付けているところです。申し込み先は、小宮仮設焼却施設、蕨平仮設焼却施設・仮設資材化施設、いずれについても、村除染推進課除染係(村役場本庁 ☎0244-42-1625)となります。
 申し込みは、自治会単位でも、任意のグループでも結構です。見学者全員の氏名を記載した名簿を作成し、見学希望の日をちにお知らせください。それを元に、除染係から環境省に見学申請書を提出します。
 手続きの都合上、見学日から3週間程度の余裕を持って、申し込んでください。

いいたて 歳時記
 ならわしや季節のあれこれ

その ⑩

節分と豆まき

節分を迎える時は、鬼の目をつぶし侵入を防ぐため、柀の枝や豆がらにイワシのアタマを刺して、戸口に挿しておきました。そして、2月3日(または4日)に、炒った大豆を一升(または二升)に、鬼は外と叫びながら豆まきをしました。出稼ぎなどで家を出ている人がいる家では、その人が鬼になってしまおうからという理由で、家族が全員そろっている時に行いました。また、豆は、目をつぶって、年の数より一つ多く拾って食べました。また、またいた豆を囲炉裏に12個並べて炙り、豆の焦げ具合で、その年の作物の出来や、天候を占いました。黒い豆は豊作、白い豆は大雨と言われていました。



参考:「おばあちゃん、おじいちゃんの知恵袋」
 村教育委員会発行

「お詫びと訂正」広報いいたて1月号の記事に誤りがありました。12ページ「蘇るオオカミ絵を佐須でお披露目」の記事で、復元したオオカミ絵を「来年5月には県立博物館で展示の予定」としていますが、正しくは「今年(平成28年)5月には県立美術館で展示の予定」です。
 訂正し、関係者の皆様に心よりお詫び申し上げます。

誕生おめでとう

赤ちゃんの名前	親の氏名	行政区
高野 心結ちゃん	和彦・歩未	大倉
佐藤 志歩ちゃん	拓未・千明	関根・松塚
菅野 世連くん	慎吾・友美	関根・松塚
庄司 愛美ちゃん	一徳・千恵子	長泥
齋藤 愛空ちゃん	亮太・友紀	飯樋町
青田 秀愛くん	大希・真恵	草野

すくすくと元気に育ってね

結婚おめでとう

氏名	出身地
柴田 尚輝	福島市
末永 智恵	深谷

いつまでもお幸せに

おくやみ

氏名	年齢	行政区
大谷 ツメ	61	小宮
高橋 力授	83	長泥
目黒 明	75	小宮
佐藤 作代	51	草野
高橋 キヨイ	91	上飯樋
阿部 シゲ子	89	佐須
今野 フクヨ	92	草野
森谷 徳七	91	伊丹沢
石井 ツヤ	95	白石
石川 孔子	93	比曾
須和 正市	66	前田・八和木
横山 タケ子	85	小宮

ご冥福をお祈り申し上げます
 (12月11日から1月20日までに届け出のあったものを掲載)
 ※この欄に掲載を希望しない方は、届け出のときに住民係へ申し出てください。

編集後記
 音を立てたくなくてカメラのシャッターを切るのがためらわれました。相農飯館校演劇部の公演。席を埋めた観客が息をのんで舞台を見つめていたからです。避難先のサテライト校を舞台にしたストーリー。村の現状を浮き彫りにする場面が続きます▼「敵を作って責めても何にもならない。分かっているんだよ。でもこの気持ち、どうしたらいいんだろうね」。飯館校の化身であるフアントム(怪人)はこう問いかけて「あの場所です。待っている」と村へ戻って行くのです。悲しみが痛みとなって鋭く胸を突きました▼観劇後のロビーは「ヒリヒリと伝わり言葉にならないですよ」「支えられて今があると感じました」とそれはさまざま「共感」に満ちていました。深く届くお芝居でした。生徒の皆さん、ありがとう。(星)